

愛知県航空宇宙産業振興ビジョンの概要

策定趣旨

中部地域・愛知県の航空宇宙産業の振興及び自動車等他産業への波及効果や相乗効果もふまえたこの地域全体の振興のための、今後の本県における体系的・総合的な施策展開のあり方を提示する。

目標年次

平成25年度
(2013年度)

現状と動向

我が国航空宇宙産業の現状と動向

工業売上高は1.4兆円(平成18年)で、産業規模は欧米主要国に比して非常に小さい(米国の14分の1)。
複合材料等高度な技術力を背景に、航空機の国際共同開発参加比率を順次拡大(B767では15% B787は35%)
平成16年以降民需が急拡大し、平成18年には初めて官需を上回る(航空機産業)
H-Aロケットの打上げが民間移管(平成19年)され、海外の衛星の打ち上げの受注に初めて成功(平成21年1月)

世界の航空機産業の市場動向

今後20年で世界の航空機需要は2倍以上に
中、小型機の需要拡大が顕著

中部地域の現状

中部地域に多くの航空機機体メーカー、宇宙機メーカー、素材・部品メーカー、大学、研究機関が集積立地
高い航空機生産シェア(中部地域/全国=約50%)
YS-11以来40年ぶりの国産ジェット旅客機MRJの事業化決定による中部地域の航空機産業振興の機運の高揚
宇宙分野でもH-A、H-Bロケット、宇宙実験モジュール「きぼう」など主要プロジェクトに地域企業が参画

課題

研究開発インフラの整備(JAXAの誘致等)
産学官連携推進体制の整備
継続的・連続的な航空機開発サイクル及び販売体制の確立
中小企業の新規参入(特に、認証の取得等が新規参入の障壁となっている)
効率的な部品供給体制の構築(機体メーカーと外注先部品メーカー間での複雑な部品往復)
人材育成(専門的教育機関の必要性等)
海外サプライヤーとの競合
受注変動への対応
中部地域からの情報発信と県民、青少年の理解向上

振興の方向性

材料開発から飛行試験・開発・生産まで一貫して行われる地域としての強み発揮

JAXAの誘致等航空機の研究拠点を整備することにより、これまでの産業集積も含め、当地域が材料開発から生産まで担うことのできる一貫体制を構築し、産業の総合力発揮を図る。
航空宇宙産業の振興に向けて地域の企業群、大学、研究機関、行政が有機的に連携し一体となった取組を可能とする「航空宇宙産業クラスター」を形成する。

航空機産業の裾野拡大と部品供給体制の質的変換

高度な技術力により部品の製造・加工を担う中小企業群を育成し、産業の裾野拡大を目指す。
高品質な部品や素材が迅速に供給できる体制・仕組み作りを目指す。

自動車産業等との相乗効果の発揮(自動車産業等とのコラボレーション、相互技術波及)

航空宇宙産業と他産業間における相互の技術波及を誘発し、地域の産業全体のレベルアップを図る。
各々の産業間の企業の相互参入の促進により、産業の安定的発展、企業経営の安定化を図る。

航空宇宙を大切に作る風土づくり、地域づくり

当地域が航空宇宙産業のメッカであることなどについて県民の理解向上を図る。
県営名古屋空港や中部国際空港の活用も視野に入れた地域づくりを推進する。

<産学官の取組>

航空宇宙分野に係る研究開発基盤の強化に向けた取組推進
・研究開発拠点及び施設の整備
・JAXAの誘致
地域における航空宇宙産業振興のための枠組みづくりの推進

<産学官の取組>

中小企業の参入支援の実施
高度専門人材の育成の推進
生産・物流工程の効率化への取組
産業の裾野を支える中小企業の技術支援
サプライヤーの育成

<産学官の取組>

異分野間の研究交流の推進
複合材料の活用研究の推進

<産学官の取組>

一大生産拠点としての中部地域のPR
県民、次代を担う青少年への普及啓発
名古屋空港、中部国際空港の活用